

尾頭トンネルから塩原方面を臨む風景。手前に見える国道400号が写真中央に向かって走り、塩原地区、そして西那須野地区へと抜けていく。早朝には、奥の山間から朝日が顔を出し、山々を赤く染める光景が広がります



商工観光課
山口 祥典 主任

隣接県からの観光客のアクセスに400号が必須

本市に訪れる宿泊客の居住地で多いのは、第1位は埼玉県、第2位は茨城県、第3位は福島県です。埼玉県や福島県は国道4号や東北自動車道を利用して来訪する人が多いものと思われませんが、茨城県側からのアクセスは、国道400号によるところが大きいと見ています。多くの観光客が利用する道路であるので、おもてなしの観点から、渋滞の緩和や道路をきれいに保つことが必要であると考えています。



存在

第2章

道路は、人々の移動を実現するための最も身近な生活インフラで、その広がりとともにまちが発展してきたと言えるでしょう。先人たちのたゆまぬ努力によって開通し、今日まで進化し続けてきた国道400号。本市におけるこの道路の存在を改めて考えます。

茨城・栃木・福島を結ぶ大動脈

私たちは日々の生活の中で、どこかに出かけるときには住居に隣接した生活道路から、さまざまな道路を通じて目的地を目指します。その際、国道400号や国道4号などの幹線道路を利用することもありますが、まちなかの生活道路にもつながっていて、細かな生活道路にもつながっている役割を担っています。

それとは異なる人の流れを生み出しました。国道400号の起点は茨城県水戸市で、終点は福島県耶麻郡西会津町。これらをつなぐ道は、物流や観光面など本市に大きな恩恵を与えたと言えます。



起伏や景観に富んだ名道

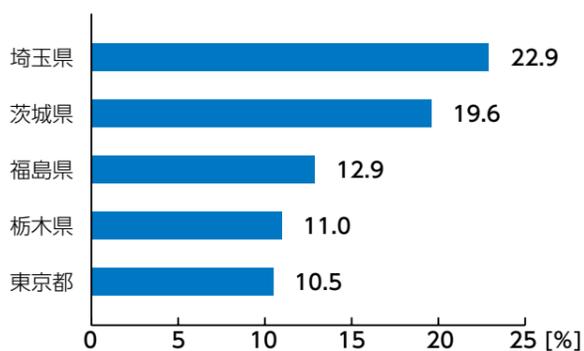
国道400号は、起伏に富んだ国道でもあります。市内だけで見ても西那須野地区緑地内から塩原地区の尾頭トンネルまで、その標高差は580メートル以上。一方、市内における国道4号の標高差は40メートル程度にとどまっています。国道400号は、標高が上がるにつれて景観も様変わり。西那須野市街地に始まり、千本松の杉並木、開けた関谷地区を抜け、塩原渓谷、そして温泉街へと続きます。道中には烏ヶ森公園、西那須野塩原インターチェンジ、那須野が原公園、千本松、道の

※国土地理院GSI Mapsより算出。

南会津地域の生活を支える道

国道400号は、福島県南会津地域住民の首都圏へのアクセスにも便利な道路です。国道400号を抜けて東北自動車道を利用したり、那須塩原駅から新幹線を利用することも少なくなく、南会津地域の人にとって必須の道路と言えます。国道400号が三島通庸の意図した産業の振興・経済の進展につながったこととは言うまでもないでしょう。

那須エリアを訪れた宿泊者の居住地(上位5都県)



出典：令和元(2019)年度栃木県観光動態調査